

言語文化学科のフィールドワーク教育：毛毛語茶園で中国語力を磨こう（フィールドワーク教育年次報告）

著者	張 盛開
雑誌名	みんなの大学
巻	19
ページ	22-23
発行年	2017-03-20
出版者	静岡大学地域社会文化研究ネットワークセンター
URL	http://doi.org/10.14945/00010122

毛毛語茶園で中国語力を磨こう

言語文化学科 張 盛開

1. 概要

毛毛語茶園は静岡大学での中国語初修者のための中国語コミュニケーションコーナーである。主な活動は週一回の開園と年一回の横浜漢語角との交流及び静大フェスティバルでの展示会である。「毛毛語 (yu) 茶園」とは茶畑に降りかかる「毛毛雨 (yu)」（霧雨）で茶の葉が少しずつ成長していくことに因んで、学生の中国語力が茶園での甘露のおかげで、少しずつ上達することを意味している。茶の名産地静岡と茶の発祥地中国との関連も念頭に、長年静岡大学にて中国語教育に携わっている金小賢先生が命名したものである。2016年度の活動と今後の課題について以下に述べる。

2. 運営

2.1. 恒例の行事

恒例の行事は三つある。一つ目は常設の茶園である。毎週月曜日、昼休み 12:00-12:40 に開園し、中国人留学生が二人以上在室している。今年度は進行を基本的に留学生に任せる方針を採っている。前半は中国の料理、漢詩などの主題で、留学生が用意した資料について勉強する。後半は自由な会話の時間である。留学生は発音チェックをし、会話練習のパートナーを務める。一年間で合わせて28回（前期、後期それぞれ14回ずつ）開園し、日本人学生、市民聴講生、留学生などが来園し、来園者数述べ282名。

二つ目は横浜漢語角メンバーとの交流会である。7月10日毛毛語茶園のメンバーのうち、有志11名が横浜漢語角（同じく中国語コミュニケーションコーナー）第122回に参加し、中国語、中国について語り合い、交流を行ってきた。社会人の積極的な学習姿勢に刺激され、学生たちも奮って中国語を使った。

三つ目は学園祭での展示である。11月19、20日、静大フェスティバルにて毛毛語茶園の展示会をした。中国語学習教材、中国のお茶、中国留学、伝統的な中国衣装（漢服）などを展示し、毛毛語茶園の活動や中国文化を紹介した。ご来場いただいた方には温かい中国茶でもてなし、中国文化に直接触れていただいた。2日間、約200名の方が来園。

2.2 新しい試み

今年度の初めての試みは三つある。一つは、授業との共催で、中国語教育法履修学生の実践の場として提供し、毛毛語茶園でそれぞれ一回ミニ講義をしていただいた。もう一つの試みは静岡空港でのフィールドワークである。その内容は静岡にきた中国人観光客へのインタビューである。

2.2.1. 授業との共催

中国語教育法履修者三名は①「漫画を通して学ぶ日中オノマトペ」、②「歌詞からみる日中の言語や文化の差異」、③「中国語のなぞなぞを当ててみよう」というタイトルで、それぞれ充実した内容でグループワークを経てのミニ講義をした。写真から見てもわかるように参加者一同楽しく参加することができた。



2.2.2. 静岡空港でのインタビュー調査

10月22日（金）、毛毛語茶園のイベントとして、静岡空港にて中国人観光客を対象にインタビューを行った。静岡大学の学生（市民聴講生を含む18名）が参加し、静岡を出国する中国人観光客を約20名インタビューした。参加学生は日本人学生と留学生でグループを組み、初の中国人インタビューに臨んだ。皆さんは観光客から静岡に対する生の声を聞くことができ、それぞれの形で収穫があったようである。

一部の参加者の感想（日本語は日本人学生、中国語は留学生から）：

- 最初は初対面の人に話しかけるといって先ず苦労しました。...でもグループのメンバーと協力しあいながらインタビューができて良かったです。
- ...留学生と日本人学生が協力して、学生中心となってアンケートを作成し、実際に空港でインタビューするというのは、普段学校で座って授業を受けているだけでは得られない経験でした。ぜひ来年以降も続けて行って欲しいと思います！
- 1番の収穫は、中国人観光客の方々の生の声を聞くことができたことです。...お話を伺う中で、中国人の方から見た静岡の街の良さについても気づかされました。...この活動を通して、自分の街と中国の良さを改めて発見し、さらに好きになりました。
- 最大の感触就是组员们一起为同一个目标而奋斗。...希望这个活动持续下去越来越成熟！
- 中国人对静岡市的评价也让我感受到日本同中国的差异。希望两国能互相取长补短，中日之间的文化交流更频繁更顺利。也希望热爱中文的同学能利用中文充分发挥自身价值，成为中日文化交流的桥梁。



2.2.3. 拡大交流会

中国の春節が近い1月23日、第23期開園日に拡大交流会を開催した。当日はアツアツの中国茶と中華ランチを頂きながら、中国のなぞなぞを考え、中国からのゲストが三名、中国語の全教員と英語、スペイン語の教員にも参加していただき、いつもの毛毛語茶園を多くの方に体験していただいた。更に今後の毛毛語茶園のグローバル化についても語り合うことができた。



3. 教育効果

恒例の行事も今年度の初の試みの成果も、どちらから見ても予想していた効果が出たといえる。思った通りに、学生それぞれ自分なりに楽しみながら学んだことも多かった。開園日にいつも同じ相手と自由会話ができたので、日本人と留学生の交流を深めることができた。フィールドワークでは留学生と日本人学生がグループを組んで行動していたので、それぞれ協力性を磨くことができた。大学から外へ出て行くことによって、横浜、静岡空港などでは予想以上に大学の宣伝ができた。静大フェスティバルでは地域の方が多く来場し、一般人向けに大学や自分の学びを紹介することを通して、地域の方との交流も深めた。

4. 今後の課題

留学生も日本人学生と毎週交流ができて、日本のことをいろいろ勉強できたという人が何人かいた。更にこれからも常時日本人学生と交流したい留学生が多かった。一方で学園祭を機に、日本人学生の来園者が一気に減っている。その原因を見つけ出し、来年度から改善していく必要がある。